

第14回日本頭蓋顎顔面外科学会学術講習会報告記

学術委員長 帝京大学形成外科 小室裕造

第14回日本頭蓋顎顔面外科学会学術講習会が第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会の終了翌日の2018年10月13日(土)に北海道大学医学部学友会館フラテにて開催されました。

今回のテーマは「Aesthetics と Occlusion から導く理想の治療プランニング」です。



コースディレクターは東海大学の赤松正先生で、形成外科からは藤田医科大学の奥本隆行先生、日本医科大学千葉北総病院の秋元正宇先生、矯正歯科からひろい歯科・すさみ矯正歯科の須佐美隆史先生、東京歯科大学の坂本輝雄先生、聖マリア病院の森下格先生、藤田医科大学の近藤俊先生に講師をお願いいたしました。

お手伝いいただいた faculty は沖縄県立中部病院の石田有宏先生、福島医科大学の小山明彦先生、東北大学の今井啓道先生です。

全国から23名の若手から中堅までの形成外科医が参加してくれました。



赤松先生

まずはコースディレクターの赤松先生から歯の解剖、正常咬合 (static, dynamic) 歯胚形成・萌出時期、Angle 分類についての説明が行われました。



参加者には歯牙が取り外しできる歯科模型が配られました。この模型は持ち帰っていただきますので、これだけでも講習代のもととはとれます。

歯を模型から抜いて復元しますが、皆さん悪戦苦闘しています。歯科の講師の先生方に教わりながらなんとか元に戻していきます。

次いで坂本先生より模型分析、セファロ分析、トレース実習の講義がありました。



坂本先生



森下先生によるセファロトレースのデモ。



皆さん熱心にセファロのトレースです。



近藤先生のやさしい指導

昼食をはさんで午後の講習です。



まずは奥本先生より形成外科の視点から顔面骨切りのプランニングのポイント
を、症例を交えて教えていただきました。



次いで須佐美先生より矯正歯科の視点から顔面骨切りのプランニングの立て方の講義です。



コンピューターオタクの秋元先生から各種フリーソフトを用いての3DCTデータの抽出、実際のシミュレーションについて入門編のお話を伺いました。

休憩をはさみ症例検討です。用意された下顎前突とクルーズン病の 2 症例を用いて必要な抜歯、骨切りのプランニングを行います。



グループに分かれて熱心なディスカッションが行われ治療プランが立てられます。あっという間に制限時間いっぱいとなりました。



参加者全員で記念写真

顔面骨を扱う形成外科医には最低限の歯科的知識が必須です。また矯正歯科については学ぶ機会は少なく、今回の学術講習会は貴重な機会だったのではないのでしょうか。

講師の先生方、会場の準備していただいた北海道大学のスタッフの方々本当にありがとうございました。

